

# 先人の知恵から

## 39

かうんせりんぐるうむ かかし

河 岸 由 里 子

中々進まないこのシリーズだが、何とかサ行が終わる。千里の道も一歩よりなので、ぼちぼち進めていこう。

今回は「そ」のところから以下の8つ。

- ・曾参人を殺す
- ・総領の甚六
- ・鼠穴を治めて里閭を壊る
- ・謗りを止むるは身を修むるに如くは莫し
- ・外檻樓の内錦
- ・備えあれば患い無し
- ・備わらんことを一人に求むるなかれ
- ・其の進むこと鋭き者は其の退くこと速やかかなり

### ＜曾参人を殺す＞

嘘でも同じことを何度も言われると、ついには人がそれを信じるようになるということのたとえ。 出典 戦国策

ある女の子が、母親から「かわいくない」とずっと言われ続けてきた。その子はずっと自分は「かわいくない」と思い続け、すべてに自信を持てずにいた。でも本当はその子はとても可愛いのだが、母親がその子

の可愛さに嫉妬していた。こんなケースはそう多いわけではないが、刷り込みというのは怖いものだ。

同様に、この情報過多の中で、多くの人たちが、自分に都合の良い情報を拾い集め、信じ込む。良いほうに信じ込めば良いが、悪いほうを信じ込むことの方が多い。信じれば救われることもあるが、信じることで苦しむこともある。

そんなことを伝えたいときにこの諺を使う。

### ＜総領の甚六＞

最初に生まれた子は大事に育てられるので、弟や妹たちに比べるとおっとりしている、お人好しで世間知らずのことが多いということ。いろはがるた（江戸）の一つ。総領＝家の跡目を継ぐ者。長男・長女を指すが、一般に長男を言う。甚六＝「ろくでなし」を人名めかして言ったもの。また、「順祿」のなまりで、順序として父の世祿を継ぐの意という説もある。

この諺が使えるケースと使えないケースとある。一人目の男の子の場合、初孫や跡

取りだったりすると、祖父母も含め大騒ぎで、大事に大事に育ててしまって、弱弱しい子になったり、一人で決められない子になったりする。また、長男なんだからと、妙に背伸びさせられてしまうケースもある。成長が不自然にゆがめられることで、神経症や精神疾患に移行するケースも多い。過敏性腸症候群が長男によくみられるのもそのためではと思われる。

まして、最近では父母の精神状態も影響し、母親が長男に依存的になってしまうと、母子密着になってしまう、家族としても問題を抱える可能性も高くなる。長子というのは、どうしても上だからということとしっかりするよう言われることも多い。好きで長子になったわけではないので納得できないことも多いだろう。

昔ながらの雰囲気、のんびり育てられれば良いが、世界が全般的にスピーディーな中では、ゆっくり、ゆったりとした子育てができないことが多く、おっとりとした性格にならないことも多い。ただし、子どもたちは概して優しく、親に対して歯向かわない良い子になっている。世間知らずということよりも、ネットで調べて良く情報を知っていることの方が多いだろうが、優しさがかえってあだになる事もある。そういう意味では次男は気楽なことが多く、それは今も昔も変わらない。

騙されやすいかと言えば言えないこともないし、お調子者になりやすい子も見かける。「長男の甚六」よりも英語の「次男の方が賢い」方が納得しやすいかもしれない。

そんなことから、父母には、長男長女に対して、好きで長男長女になったわけではないということを伝えながら、子どもは出

来るだけ、ゆっくりゆったりと、子どものペースに合わせて育てるように、また、優しい子に育つと騙されやすいというマイナス面もあることをこの諺を用いて伝えている。

英語では・・・

The younger brother has the more wit.  
(弟の方が賢い)

### ＜鼠穴を治めて里閭を壊る＞

小さな害を除こうとして逆に大切なものを台無しにしてしまうたとえ。鼠を退治しようとして村の門を壊してしまうということから。「鼠を治めて里閭を破る」ともいう。里閭＝村の入り口の門。 出典 淮南子

小さいことばかり気にしてしまう母親が増えた。完璧主義だったりもする。そんな母親にこの諺を伝えることがある。

小学校低学年の子が、準備や宿題を忘れて、家庭学習をやらなかったりすると、目くじらを立てて叱っている母親に出会う。宿題を忘れようが、忘れ物をしようが、楽しく学校に行けている方が、不登校になってしまうよりずっと良いだろう。小さなことばかり言っていれば、子ども自身も小さいことを気にするようになって、不安の強い子になってしまう。不安が強くなれば、学校に行くことにも抵抗が出てきてしまう。

コロナ禍になって、母親が過敏に消毒やうがい、手洗い、マスクを強要している間に、子どもも過敏になって、見えない敵（ウイルス）に対して必要以上に不安を感じるようになったケースもある。

これは学校の先生方にも言えることではないだろうか。不登校になった子どもたち

から、先生が怒ってばかり、注意ばかりしていると思うことも多い。注意ばかりされていたら、学校はつまらなくなる。楽しく過ごせる、楽しく学べる学校であれば不登校にもならないだろう。細かいことばかりに気をとられ、肝心な学校に行く楽しさを台無しにしてしまわないように、保護者も学校も気を配ってほしいと思う。

<誘りを止むるは身を修むるに如くは莫し>

他人から非難されないためには、まず自分自身が正しい行いをするのが一番大事であるという教え。 出典 中論

この諺は、子どもにも、保護者にも、或いは先生方にも伝える必要があると思う。他人のことはいくらでも非難する人が増えている今の時代、自分はどうか、自らの姿勢を律することの重要性をもっと考えてほしい。

子どもたちに、「約束を守りなさい」と言いながら、約束を守らない保護者や先生。規則や規範を守らない大人たち。人の話を聴かない大人たち。こうした大人たちを子どもたちは見本にしてしまう。子どもたちだけをいくら叱っても、見本が間違っているのでは説得力も何も無い。

子ども自身も、自分を客観視できないこともあるので、人を非難する前に、自分を確認しようという意味で伝えている。

<外襠の内錦>

外見は飾らないが、内実はすぐれていること。また、貧しい生活をしていても、心が豊かなことのとえ。外見はお粗末な衣

服だが、その下には豪華な絹織物を着けているの意から。

昨今、自分の顔や姿を気にする子が多い。ガールズモデルが流行り、ヤング向けの週刊誌もあって、どんな服が良いとか、化粧がどうか、ネイルにも小学生から熱中している。小学生の服装も、モデルさながらで、肩だしはあるし、胸が大きく開いている服などを着ている子もいる。髪も染めていたり、マニキュアを落とさきれない状態で来ている子もいる。外見ばかりに気を使っていて、内面を磨くことがおろそかになってしまうと、人としての成長が滞るだろう。見た目に気を配るのもよいが、人とかかわりを表面的にしてばかりで、ぶつかり合うことを避けていると、内面は育たない。もっともっと内面を磨くために、人との摩擦を感じ、距離感を掴み、人を怖がらずにコミュニケーションができる子に育ててほしいものだ。それは小中高すべての子どもたちに言えるし、場合によっては大人である保護者にもあてはまる話である。見栄ばかり張っていても、いろいろ疲弊する話になるし、見た目ばかりにとらわれていても良いことはない。見た目はおいしそうだけど、実は不味い料理より、見た目は今一つでもおいしいほうが絶対良いだろう。そういう風に考えられる人になってほしい。この諺を使うことがある。

<備えあれば患い無し>

普段から準備を十分にしていれば、いざというときにも心配ないということ。

出典 書経

これは、どんな年代でも、どんな人にも通用する諺であろう。大きくは自然災害に備えておくこともそうだし、避難訓練もこれにあたる。小さくは、試験前や旅行前の準備なども同様。

筆者は長年茶道に親しんできたが、千利休の言葉に「降らずとも雨用意」というのがある。雨が降るか降らないかではなく、用意しておけば突然の雨にも対処できる。どんな場合でも、いろいろな事態を考えて、準備しておけば、何があっても慌てないで済む。人は慌てるとろくなことにならない。そういう意味でも、この諺は自分への戒めも含め広く伝えている。

英語では・・・

Lay up for a rainy day. (雨の日に備えて蓄えよ)

#### <備わらんことを一人<sup>いちにん</sup>に求むるなかれ>

一人の人間に才能や人格・知識などすべてを兼ね備えるように要求しても無理である。完全無欠な人などいないのだから、一人に過大なことを求めず、それぞれの長所を生かすようにすべきだということ。

出典 論語

この諺は子育て中の保護者によく使っている。自分自身も完璧ではないはずで、なぜ子どもに完璧を求めるのかと問う。勉強ができる子に、体育も音楽もと欲張ってみたり、性格についてまでもあれこれ注文が付く。そんなに完全無欠を求めたら、子どもが潰れてしまうのに、欲というのはとめどない。

先日も、こんな子がいた。その子は相談室に来た時に、きちんと靴をそろえて脱ぎ、

更にきちんと座って靴を反対向きにそろえて並べるのだ。まだ幼稚園児である。挨拶も、深々とお辞儀をして、「おはようございます」と言い、帰るときも、「有難うございました」とまた深々とお辞儀をしていった。絵を描くというので画用紙と鉛筆を渡せば、「有難うございます」と丁寧に感謝を述べる。きちんと座って鉛筆も正しく持ち、

「描いてよいですか？」と許可を求めるなど、堅苦しい。およそ子どもらしくないとか、きちんとしすぎているとか・・・。しっかりしつけられていると言えばそうかもしれないが、相談室に来る子のほとんどが、小学生でも、ワーッときてワーッと帰っていくので、違和感を覚えた。

母親に聞くと、「社会に出て困らないようにしつけている」という。母親自身はどんなしつけを受けたのか確認すると、「何もしつけられなかった。それで社会に出て困ったから」という。母親の親は反面教師となったようだ。それにしてもここまでしっかりしつけなくても、子どもの時代は子どもらしく過ごすことも重要だという話とともに、この諺を伝えている。

#### <其の進むこと<sup>と</sup>鋭き者は其の退くこと<sup>しりぞ</sup>速<sup>すみ</sup>やかに>

進み方が著しく早い者は、途中で気力が衰えて退くのも速い。物事には適当な速度があって、学業も一歩ずつ着実に進んで行くべきであるといういましめ。

出典 孟子

物事の進め方についての諺でもある。何でも興味を持つと異様にのめりこむ人は飽きやすいということとも重なるかもしれない

い。人との関係においても、長く付き合いおもうと思えば、ゆっくりと知っていく方が、一気に知ってしまうより長続きするだろう。

勉強も一気にやっちゃって、数日ですっかり忘れてしまうことがある。毎日少しずつの方がよいということだろう。しかし、これも人それぞれ。一夜漬けが得意な人もいれば、少しずつという人もいる。その人にはその人のペースがあるのだ。

自分にとって適切な速度というのは大事にすべきである。最近の社会変化の速さについていけない人もいる中、もう少し、ゆっくりということでもスローライフということも言われるようになってきた。特に子育てにおいては、子どものスピードに合わせてあげてほしいと思う。

## 出典説明

### 戦国策・・・三十三編

中国の雑史。前漢の劉向りゅうきやうの編。戦国時代に諸国を遊説した縦横家じゅうおうかが諸侯に説いた戦略を、国別に集めて三十三編にまとめた書。いくつかの書にのっているものを校訂・編集したもので、当時の政治・外交・軍事などを知るための貴重な資料。現在伝わるものは、北宋の曾鞏そうきやうが欠けた部分を補って編纂したものに姚宏ようこうが注を加えた三十三巻本と鮑彪ほうひやうの十巻本の二系統がある。

### 淮南子・・・内編二十一卷

紀元前二世紀、前漢の武帝の初期に成立した哲学書。編著者は、前漢の高祖劉邦りゅうほうの孫である淮南王劉安なんおうりゅうあん。無為自然の道家思想を中心都市、政治・軍事・天文・地理などにわたって諸学派の説を収めている。内編二十一卷・外編十三巻があったとされるが、現存するのは内編二十一巻のみ。

### 中論・・・

正式名称『根本中頌こんほんちゅうじゆ』初期大乘仏教の曾龍樹（ナーガールジュナ）の著作。インド中観派、中国三論宗、更にチベット仏教の依用する重要な論書である。本文は論書というよりはその摘要を非常に簡潔にまとめた27勝の偈頌からなる詩文形式であり、注釈なしでは容易に理解できない。

### 書経・・・

五経の一つ。太古の伝説上の帝王堯舜ぎやうしゆんから春秋時代までの、模範となる帝王の詔勅しやうちやくを中心に政治理念などを記した歴史書。講師が百編にまとめたとされるが不詳。秦の焚書ふんしよによって散逸し、現存するのは東晋の梅賾とうしん ばいさくによる『弘安国伝古文尚書こうあんこくでんこぶんしやうしよ』五十八編であるが偽作の疑いがあり『偽古文尚書』といわれる。本書は先秦時代には『書』、のちに『尚書』と呼ばれていたが、宋代以後『書経』と呼ばれるようになった。

### 論語・・・二十卷

儒教の経典。『大学』『中庸』『孟子』とともに四書の一つ。孔子の言行や門人たちとの問答を記録した書で、孔子の死後に門人たちが編集したものとされる。孔子は諸国を回って仁の徳による政治を説いたが、本書は孔子の人物や思想を知るうえできわめて重要な資料である。

### 孟子・・・七編

中国、戦国時代中期の思想書。孟子の原稿を門人が編纂したもので、「大学」「論語」「中庸」とともに四書の一つ。性善説に基づく道徳論を説き、霸道（武力による政治）を否定して王道（仁徳による政治）を提唱している。